

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200013		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム富江	ユニット名	富江A
所在地	長崎県五島市富江町狩立1091-3		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年10月17日	評価確定日	平成25年12月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人内GHの理念は「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します。」で取り組んでいます。これは、本人・ご家族の希望を取り入れながら利用者のペースを維持しながら支援していくことを基本にケアを行っています。職員側の決まりや都合を優先しがちな介護業務から利用者の自立を支援するために「どうすればよいか」日々考え行動することを目標にしています。そのため毎月職員の研修会を開催し知識や技術の向上に取り組み、研究発表会の開催など先進的な活動を行っています。介護の知識や技術の進歩が質の高いサービスにつながり、職員の「おもてなしの心」でケアすることに力を入れています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム富江”は地元の方が多い。ユニット同士の交流も行われ、天気の良い日は庭でお茶をしたり、周囲を散歩されている。年々、職員のチームワークは強くなり、行事の企画や研究発表の内容も職員主体で取り組まれている。両ユニットの業務の共有化も図り、両ユニットの応援がスムーズにできる体制も整えられた。“くもん学習療法”も続けられ、職員とご本人1対1の時間の中で問題を進めており、柿の話題をしながら、昔の遊びの話に発展したり、今まで知らなかった生活歴を把握できる機会になっている。“くもん学習療法”を通して、ご本人の小さな変化に職員が気付ける訓練にもなっており、観察力の強化にも繋がっている。日々の生活では車いすを利用される方が増えているが、法人内の理学療法士(PT)からアドバイスを頂き、リハビリを続けている。介護計画には具体的な短期目標が掲げられ、ご本人と職員で共有し、日々の訓練が続けられている。家族交流会(焼肉など)に理学療法士の方も来て下さり、家族の方との交流も行われている。新体制になって2年、職員全員で頑張ってきた。“良い事も悲しい事も”職員全員で共有できるよう、今後も意思疎通を図っていく予定にしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『家庭的な雰囲気の中で、その人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します』と法人内GH共通の介護理念を掲げ、理念の実現に向け、毎朝唱和し日々努力している。	職員全員、ご利用者を思う気持ちは同じであり、チームワークを強めていくための意見交換が続けてこられた。両ユニットの個性も大切にしながら、“家庭的な雰囲気の中で・・”と言う理念のもと、茶碗拭きや家事、散歩、野菜作り等をして頂いている。少しずつではあるが、業務の中に目配り・気配り・心配りの部分が見えてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、また祭りの御輿などは事業所にまで来ていただいている。消防訓練などにも地域住民の方々との参加もいただいている。	地域のエトゾジャ(祭)にも参加でき、地元の蕎麦を食べられた。小学校の運動会に行かれたり、富江神社祭では御輿しも来て下さり、小学生の巫女さんが踊って下さった。ババロア会の方や保育園児、中学生等も来て下さり、手作りの輪投げを持参し、一緒に楽しまれた。“富江ふれあい作品展”に習字等を出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所ごと、または法人全体で認知症の研修や知識の向上に努め、運営推進会議や地域行事等に参加し認知症の理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で外部評価の結果を報告したり毎月の実績や計画を報告しながら、推進委員よりアドバイスなどをいただいている。	写真等を配布して、日々の活動報告や行事報告が行われている。災害対策に関する意見交換も行われ、長崎県の他のホームの災害対策の実状も報告された。研究内容や感染症情報も報告し、一緒に勉強する機会も作られており、家族会や敬老会等の行事の時にも委員の方が参加して下さっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を利用して市町村担当者と連携を取りながら協力関係を築いている。	ミニ敬老会の公民館の手配などを支所の方に相談しており、親身に相談に応じて頂いている。挨拶にも伺い、地域の方とのネットワークも広がっている。支所の方も行事に参加して下さり、アドバイスを頂いている。富江支所の窓口でも相談しやすく、ホームだよりを届けたり、ホームの行事等の報告も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を2ヶ月に1回の割合で開催し、職員間でも研修を実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	23年秋頃、ホーム内に身体拘束委員会を立ち上げ、“拘束とは何か”の再確認も行われた。声の高さや言葉遣いの振り返りも行われ、「してもらってよかかな」等との声かけを行うように努めている。個々の行動や言動を振り返る機会が増え、お互いに相談し合える関係も築けており、心のこもった対応を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の開催と研修を重ねている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については研修会を行い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、懇切・丁寧に対応している。出来る限り専門用語等を使わないようにするなど、十分な説明により理解と納得をいただけるよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会はもちろんのこと、日常の面会時においても、家族が意見・相談できるような環境及び体制づくりに心がけている	家族交流会や行事の時は家族に声かけし、一緒に楽しむようにしている。家族から「リハビリしてほしい」と言う事を伺い、法人本部のPTにも協力して頂き、歩行訓練を続けている。アンパンを食べた時の「あー幸せ(幸福)です」と言う言葉等も家族に伝え、穏やかに過ごされている状況を報告している。	家族の方に「本音を言って頂きたい」と職員は思っている。家族の方々に遠慮がある事を理解し、家族の立場に立って相談を受けられるように努めていく予定にしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、現場の職員の声をしっかりと受け止めている。必要に応じ、代表者へ伝えるようにしている。報告・連絡・相談をきちんと行えるように努めている。	良い事も悲しい事も職員全員で共有できるようにしている。両ユニットの業務の共有化も図り、両ユニットの応援体制がスムーズにできる配慮もしている。主任、ケアマネ、副主任を中心にチームワークが深まっており、行事の企画や研究発表も職員に任せる機会も増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、利用者第一と職員の健康管理に心配りをしている。職員の勤務状況も確認し、キャリアパス制度においても個別対話を導入して職員の意見・相談なども行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際や力量の把握に努めている。また、法人内外での研修の機会や確保にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業に関連した研修会に参加し交流する機会を作っていたりしている。また、サービスの質の向上にも積極的に取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴や現在の状況を本人や家族から伺い、把握しながらケアの中に活用していくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が困っている事などを聞いて安心して相談できる関係作りに努めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフからの情報を大切にし、本人の状態をしっかりと見極めて、過剰な介護にならないように、ケア内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する・されるという関係ではなく、家庭的な雰囲気の中で一緒に暮らすという視点で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭生活として考え、家族と職員が協力して支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内でもそれぞれの地域によって特色があるので、それぞれの地域の特色を生かす支援を行っている。	お墓の場所を確認し、お線香等を準備して、お墓参りにお連れした時はとても喜んで下さった。自宅近隣の方の訪問もあり、買い物や病院の待合室で知り合いの方との団欒を楽しまれている。自宅近くの店や美容院、地区の行事(夏祭り・運動会)にも参加されており、ご本人の生活歴の把握に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係を良好に保って穏やかな時を過ごせるように支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後でも、これまで同様に相談や話を伺うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性や能力を把握し、関係を良好に保って穏やかな時間を過ごすことができるように支援している。	入浴時や団欒時に思いを聞いている。“くもん”の時間は1対1の対応になるため、会話をしながら問題を進めている。「買い物に行きたい」「パンを食べたい」等の要望と共に、ご本人のこだわり等も傾聴している。柿の話題をしながら、昔の遊びに展開する中で、今まで知らなかった生活歴を知る機会にもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中で情報を得ることにより、その内容を可能な限り生活に取り入れていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンを把握し、個々のできることを見極め、その人らしい生活ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	知り得た情報は、全職員で共有し家族様へも情報をしっかりと伝え、ご理解ご協力をいただき、ケアに活かしている。	ご利用者の“できる”能力を最大限活かした計画を作成している。目標が達成できた時は職員全員の喜びであり、職員のモチベーションアップにも繋がっている。「トイレに自分で行けるように」との希望があり、法人内のPT(理学療法士)より指導を頂き、具体的な短期目標も設定し、日々の実践が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録物の内容を全職員で共有しながら介護計画の見直し等に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態の変化を把握するように努め、生まれるニーズに対しては職員間で話し合い柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行に参加したり、買い物に出掛けたり、ドライブに行ったりして楽しみを持ってるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医とも良好な関係を保ち適切な医療を受けられるように支援している。	往診医もおられ、医療連携が更に強化された。身体的な不明点がある時は主治医に心身状況を報告し、カテーテルを外す事もできた。必要に応じて日曜も往診に来て下さり、職員の安心になっている。受診時は丁寧に情報提供しており、先生から「皆さんの方が(認知症の)プロですから」と言う言葉を頂く事もできた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師と情報交換を行い、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、入居者の医療情報を提供し、安心して治療できるように、定期的に面会したり、退院後のフォローを家族・関係者とともに支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に合わせて事業所内でも介護方法を話し合い、家族への説明を十分に行い関係機関と連携しながら対応している。	「できる限り入院したくない」と言う希望も多く、家族とも連携し、食事が入るぎりぎりの時期まで職員全員でケアをさせて頂いている。重度化してホームを退居される場合も、家族と情報を共有し、次の施設を紹介する等の対応が取られている。重度化予防のためのリハビリ以外に、病院の栄養士からの指導も頂き、日々の食事に活かすように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に備えて、研修や訓練を行い、実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練とは別に自主訓練も毎月行い、地震・風水害にも対応できるように訓練を行っている。	総合訓練以外に自主訓練も行われている。夜間想定訓練は職員がご利用者役になり、消火訓練も行われ、防災訓練では、ご利用者も防災頭巾をかぶって訓練に参加された。夜勤時の火元チェックを毎日行うと共に、水と食料、非常用持ち出し袋等があり、母体施設との連携も取られており、スプリンクラーも設置されている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分注意しており、そのための研修やスタッフ会議でも話し合いを持っている。	法人全体で行われる接遇研修に職員は参加している。一人の人間として敬うこと、個人情報の管理を大切にすることを実践し、排泄においても相手の傷つくような言動は使わないようにしている。“歩きたい”というご本人の思いを大切に、廊下などを一緒に歩く姿が増えている。優しい職員が多く、言葉遣いにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の自己決定を原則として、戸惑い等で決定ができない場合は、自己決定できるようにさりげなく支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれに自分のペースがあるので、職員側の都合ではなく利用者本人のペースを優先して維持するように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活のリズムを整え自分らしさを作る考えで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好む料理を主体とし、昼食時は職員が利用者と会話を楽しみながら食事している。	ご利用者と買い物に行き、新鮮な物を選んで頂いている。両ユニットそれぞれに皮剥きやテーブルを拭く等のお手伝いをして下さり、餃子作りも楽しい時間となっている。プランターで作った野菜で料理が作られ、家族から頂く野菜もあり、ご利用者がぬか床を混ぜて下さった。手作りのお弁当を、外で食べる機会も作られている。	生活歴や体調の把握を続けながら、食事量や水分量が少しでも増える取り組みを続けている。今後も、少しでも美味しく食べられる方法を検討していきたいと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、献立表を作成し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、夜は義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し、パターンを把握しながら自立に向けた支援を行っている。	リハパンを使用していた方も、排泄パターンに応じた誘導をする事で、下着に変更できた方もおられる。「ハットの使用が多いのではないか」という事務所からの指摘があり、睡眠時の排泄量を測定すると共に、安眠も重視し、必要な介助が続けられた。“人間らしく”の生活を大切にしており、主治医からもアドバイスも頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩を行ったり、毎朝起きてからコップ一杯の水や牛乳を飲んでいただくことで、自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する時間に出来る限り入浴できるように支援を行っている。また、入浴後の水分補給にも注意している。	暑い時や失禁時は適宜入浴できる体制にあり、最低でも1日おきに入浴できるようにしている。湯温の好みや順番の希望も聞いており、湯船に浸かれる方も多く、入浴時はゆっくりと職員との会話を楽しませている。自立支援の視点も職員に浸透し、ケアプランに基づく支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるように寝具や室温・湿度などに注意しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や薬局と連携を図りながら薬の目的や作用を理解しながら状態変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人の興味のあることを一緒に行うことで、本人の力を引き出せるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体長を確認しながら、本人の希望に限りなく添えるように努めている。	お天気の良い時は庭でお茶をしたり、周囲を散歩している。「パンを買いに行きたい」との事で、毎週パン屋に買い物に行かれている。外出を好まない方も多いが、自宅周辺へのドライブや季節に応じた花見を楽しませ、空港周辺の飛行機見学も喜ばれた。高浜の海までドライブし、ふれあい館の外でお弁当も食べられた。外出チェックリストも付けており、釣りの検討も続けている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が自分でお金を持ちたいとの希望については、できるだけ添うようにしている。買い物等の支払いは本人ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話したり、手紙を出すなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には季節感のある壁飾りを、玄関には月々の行事の写真を飾ったりして居心地のよい空間作りに努めている。	ご利用者の表情を見ながら会話ができるように、ソファの位置を変える中で、ご利用者からも職員への声かけが増えている。季節を感じて頂くために、季節に応じた花々を飾られており、ご利用者が活けて下さっている。すすきと秋桜を活けた時も、すすきから連想される会話に発展させたり、「季節は？」等と展開していき、会話を楽しまれている。両ユニットでカラオケを楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間を居室以外でもくつろぐことができるように、娯楽室にはソファを建物の外にはベンチを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や好きな物をレイアウトすることにより、自分らしさができるように支援している。	使い慣れた筆筒などと共に、家族の写真やラジオ、時計、鏡、ぬいぐるみ、大好きな本(マンガや週刊誌)なども持ち込まれている。色鉛筆で絵を描かれる方や、針と糸を使い、洋服のリフォームをされる方もおられ、各居室で思い思いの過ごし方をされている。家族の方も、洋服の衣替え等をして下さっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にてできることやわかることを活かしながら、安全にかつ自立した生活が送れるように支援している。		